

平成20年3月期 第1四半期財務・業績の概況

平成19年8月6日

上場会社名 日本新薬株式会社 上場取引所 東証・大証（各1部）
 コード番号 4516 URL <http://www.nippon-shinyaku.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名）前川 重信
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員 経理・財務部長（氏名）桜井 太郎 TEL (075) 321-1111

（百万円未満切捨て）

1. 平成20年3月期第1四半期の連結業績（平成19年4月1日～平成19年6月30日）

(1) 連結経営成績（%表示は対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20年3月期第1四半期	14,254	2.7	1,515	28.9	1,864	43.7	1,024	50.7
19年3月期第1四半期	13,873	△1.1	1,176	△22.9	1,297	△24.8	680	△40.0
19年3月期	56,320	—	5,220	—	5,290	—	2,899	—

	1株当たり四半期 （当期）純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期 （当期）純利益
	円 銭	円 銭
20年3月期第1四半期	15.14	—
19年3月期第1四半期	9.98	—
19年3月期	42.73	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
20年3月期第1四半期	107,488	77,280	71.8	1,139.49
19年3月期第1四半期	104,219	74,953	71.8	1,097.74
19年3月期	104,872	76,213	72.5	1,123.56

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年3月期第1四半期	1,604	△194	△660	12,167
19年3月期第1四半期	2,284	△2,554	△621	12,852
19年3月期	4,200	△4,259	△2,448	11,312

2. 配当の状況

	1株当たり配当金
(基準日)	第1四半期末
	円 銭
平成19年3月期第1四半期	—
平成20年3月期第1四半期	—

3. 平成20年3月期の連結業績予想(平成19年4月1日～平成20年3月31日) 【参考】

(%表示は、通期は対前期、中間期は対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
中間期	27,400	2.1	2,100	36.2	2,700	62.3	1,500	85.9	22.16
通期	56,500	0.3	5,400	3.4	5,900	11.5	3,300	13.8	48.74

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 無
- (3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

中間期および通期の連結業績予想につきましては、平成19年5月14日の決算公表時と変更はありません。
本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

【定性的情報・財務諸表等】

1. 連結経営成績に関する定性的情報

[売上高]

当第1四半期の連結売上高は、142億5千4百万円（対前年同四半期比2.7%増収）となりました。

医薬品事業では、主力品目である非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤「ハイペン」が大きく伸長、粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤「ガスロンN」も微増しました。一方、競合品の発売などにより、前立腺肥大症治療剤「エビプロスタット」、頻尿治療剤「ブラダロン」などが伸び悩みましたが、昨年7月にバイエル薬品株式会社から販売権の譲渡を受けたアレルギー性鼻炎治療剤「バイナス」の売上が寄与、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」原薬の売上も増加した結果、売上高は117億5千万円と対前年同四半期比3.7%の増収となりました。

機能食品事業においては、健康食品素材は新規素材が順調に推移しているもののOEM品が大きく減少、品質安定保存剤はほぼ横這いで推移、たん白製剤では大豆たん白は順調に伸長していますが、たん白品質向上剤が減少しました。その結果、売上高は25億3百万円と対前年同四半期比1.3%の減収となりました。

[利益]

費用面につきましては、医薬品事業では品目構成の変化と原料価格の上昇、機能食品事業では原料価格の上昇により、売上原価率は46.0%と前年同四半期に比べ2.0ポイント上昇しました。販売費及び一般管理費は主として研究開発費の減少により前年同四半期に比べ4億2千9百万円（6.5%）減少しました。その結果、当第1四半期の営業利益は15億1千5百万円（対前年同四半期比28.9%増益）となりました。営業外収益の増加により、当第1四半期の経常利益は18億6千4百万円（対前年同四半期比43.7%増益）、純利益は10億2千4百万円（対前年同四半期比50.7%増益）となりました。

[研究開発の状況]

国内では、吸入ステロイド剤「NS-126」についてアレルギー性鼻炎治療剤として昨年12月に承認申請を行いました。癌性疼痛治療剤「NS-315（一般名：塩酸トラマドール）」については第三相追加臨床試験を実施中です。アルコール依存症治療剤「NS-11（一般名：アカンプロセート）」は第二相試験を実施中です。ファーマオン社（米国）から導入した骨髄異形成症候群治療剤「NS-17（一般名：アザシチジン）」については第一相試験の準備中です。また、ノーベルファーマ株式会社が開発し、月経困難症治療剤として承認申請中の低用量ピル「IKH-01（商品名：ルナベル錠）」について、同社と販売提携契約を7月に締結しました。

海外では、合成抗菌剤「プルリフロキサシン」について、韓国で導出先の柳韓洋行社により承認申請中です。また、米国では導出先のオプティマー社により第三相試験が実施されています。イノバイブ社（米国）へ導出した慢性骨髄性白血病治療剤「NS-187」については第一相試験を実施中です。自社開発の肺高血圧症治療剤「NS-304」については英国での第一相試験を終了し、第二相試験の準備中です。

2. 連結財政状態に関する定性的情報

総資産は1,074億8千8百万円と前連結会計年度末に比べ26億1千6百万円の増加となりました。流動資産は現金及び預金、棚卸資産、繰延税金資産等が増加し、537億2千6百万円と前連結会計年度末に比べ18億7千7百万円の増加、固定資産は有形固定資産、投資有価証券等が増加し、537億6千1百万円と前連結会計年度末に比べ7億3千8百万円の増加となりました。

負債は、長期借入金、未払法人税等が減少しましたが、賞与引当金、繰延税金負債等が増加し、302億7百万円と前連結会計年度末に比べ15億4千8百万円の増加となりました。

純資産は、利益剰余金、その他有価証券評価差額金の増加により、772億8千万円と前連結会計年度末に比べ10億6千7百万円の増加となりました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末から0.7ポイント減少し71.8%となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当期末の現金及び現金同等物の残高は、前期末に比べ8億5千4百万円増加し、121億6千7百万円となりました。

<営業活動によるキャッシュ・フロー>

16億4百万円の収入となりました。主な内訳は、収入項目では税金等調整前四半期純利益18億6千4百万円、その他引当金の増加11億7千6百万円、減価償却費6億3千6百万円、支出項目では法人税等支払額12億6千6百万円、棚卸資産の増加5億5千5百万円です。

<投資活動によるキャッシュ・フロー>

1億9千4百万円の支出となりました。主な内訳は、収入項目では投資有価証券の償還・売却による収入6億7千4百万円、支出項目では投資有価証券の取得による支出5億5百万円、有形固定資産の取得による支出4億8百万円です。

<財務活動によるキャッシュ・フロー>

6億6千万円の支出となりました。長期借入金の返済、配当金の支払い、自己株式の取得によるものです。

3. 連結業績予想に関する定性的情報

当第1四半期の業績は概ね順調に推移しており、当期の中間期および通期の連結業績予想につきましては、平成19年5月14日の決算公表時と変更はありません。

4. その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用

該当事項はありません。

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

該当事項はありません。

5. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結損益計算書

(単位 百万円)

科目	前連結第1四半期 (平成18. 4. 1 から 平成18. 6. 30まで)	比率 (%)	当連結第1四半期 (平成19. 4. 1 から 平成19. 6. 30まで)	比率 (%)	増減	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18. 4. 1 から 平成19. 3. 31まで)
売上高	13,873	100.0	14,254	100.0	+381	56,320
売上原価	6,100	44.0	6,561	46.0	+461	25,115
返品調整引当金繰入額	△4	△0.1	3	0.1	+7	△1
売上総利益	7,777	56.1	7,688	53.9	△89	31,206
販売費及び一般管理費	6,601	47.6	6,172	43.3	△429	25,985
(内、研究開発費)	(2,164)	(15.6)	(1,763)	(12.4)	(△401)	(8,200)
営業利益	1,176	8.5	1,515	10.6	+339	5,220
営業外収益	232	1.7	468	3.3	+236	986
営業外費用	111	0.8	119	0.8	+8	917
経常利益	1,297	9.4	1,864	13.1	+567	5,290
税金等調整前四半期 (当期) 純利益	1,297	9.4	1,864	13.1	+567	5,290
法人税、住民税及び 事業税	820	5.9	1,080	7.6	+260	1,969
法人税等調整額	△206	△1.4	△243	△1.7	△37	413
少数株主利益	3	0.0	2	0.0	△1	8
四半期(当期) 純利益	680	4.9	1,024	7.2	+344	2,899

(2) 四半期連結貸借対照表

(単位 百万円)

科目	前連結 第1四半期末 (平成18. 6. 30)	比率 (%)	当連結 第1四半期末 (平成19. 6. 30)	比率 (%)	(参考) 前連結 会計年度末 (平成19. 3. 31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
資産の部	104,219	100.0	107,488	100.0	104,872	100.0	2,616
流動資産	50,149	48.1	53,726	50.0	51,849	49.4	1,877
現金及び預金	12,952		11,747		10,893		854
受取手形及び売掛金	24,985		28,301		28,194		107
有価証券	300		1,099		1,199		△100
棚卸資産	8,736		9,325		8,770		555
繰延税金資産	1,944		2,047		1,558		489
その他	1,231		1,205		1,233		△28
貸倒引当金	△0		△0		△0		△0
固定資産	54,070	51.9	53,761	50.0	53,023	50.6	738
有形固定資産	21,221	20.4	21,106	19.6	20,925	20.0	181
建物及び構築物	9,776		9,483		9,667		△184
土地	8,219		8,173		8,173		—
その他	3,225		3,449		3,084		365
無形固定資産	212	0.2	181	0.2	186	0.2	△5
投資その他の資産	32,636	31.3	32,473	30.2	31,912	30.4	561
投資有価証券	24,325		24,886		24,130		756
繰延税金資産	43		52		50		2
投資不動産	1,383		1,384		1,399		△15
長期前払費用	5,792		5,141		5,314		△173
その他	1,131		1,140		1,145		△5
貸倒引当金	△40		△132		△128		△4
資産合計	104,219	100.0	107,488	100.0	104,872	100.0	2,616

(単位 百万円)

科目	前連結 第1四半期末 (平成18. 6. 30)	比率 (%)	当連結 第1四半期末 (平成19. 6. 30)	比率 (%)	(参考) 前連結 会計年度末 (平成19. 3. 31)	比率 (%)	対前連結 会計年度末 増減
負債の部	29,265	28.1	30,207	28.1	28,659	27.3	1,548
流動負債	13,479	12.9	15,560	14.5	14,129	13.4	1,431
支払手形及び買掛金	3,290		4,311		4,050		261
短期借入金	30		30		30		—
一年内返済予定長期借入金	1,221		1,200		1,203		△3
未払金	2,753		3,519		3,429		90
未払法人税等	874		1,168		1,382		△214
賞与引当金	3,401		3,524		2,356		1,168
返品調整引当金	7		14		10		4
その他	1,900		1,792		1,667		125
固定負債	15,785	15.2	14,646	13.6	14,530	13.9	116
長期借入金	2,123		925		1,224		△299
繰延税金負債	3,463		4,193		3,627		566
退職給付引当金	9,880		9,223		9,363		△140
その他	318		303		314		△11
純資産の部	74,953	71.9	77,280	71.9	76,213	72.7	1,067
株主資本	65,534	62.9	67,507	62.8	66,900	63.8	607
資本金	5,174	5.0	5,174	4.8	5,174	4.9	—
資本剰余金	4,440	4.2	4,440	4.1	4,440	4.2	0
利益剰余金	57,306	55.0	59,738	55.6	59,119	56.4	619
自己株式	△1,386	△1.3	△1,845	△1.7	△1,834	△1.7	△11
評価・換算差額等	9,280	8.9	9,628	9.0	9,169	8.7	459
その他有価証券評価差額金	9,279	8.9	9,626	9.0	9,168	8.7	458
繰延ヘッジ損益	1	0.0	1	0.0	0	0.0	1
為替換算調整勘定	△1	△0.0	△0	△0.0	0	0.0	△0
少数株主持分	138	0.1	145	0.1	143	0.2	2
負債、純資産合計	104,219	100.0	107,488	100.0	104,872	100.0	2,616

(3) 連結キャッシュ・フロー計算書

科目	前連結第1四半期 (平成18.4.1から 平成18.6.30まで)	当連結第1四半期 (平成19.4.1から 平成19.6.30まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18.4.1から 平成19.3.31まで)
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
I 営業活動によるキャッシュ・フロー			
1 税金等調整前四半期(当期)純利益	1,297	1,864	5,290
2 減価償却費	655	636	2,750
3 退職給付引当金の増減額(減少:△)	△99	△140	△615
4 その他引当金の増減額(減少:△)	1,146	1,176	191
5 受取利息及び受取配当金	△135	△157	△335
6 支払利息	12	8	41
7 投資有価証券売却益	△0	△148	△4
8 売上債権の増減額(増加:△)	△139	△107	△3,347
9 棚卸資産の増減額(増加:△)	474	△555	441
10 その他流動資産の増減額(増加:△)	139	31	83
11 仕入債務の増減額(減少:△)	△823	260	△27
12 未払消費税等の増減額(減少:△)	44	△52	65
13 その他流動負債の増減額(減少:△)	△53	△8	380
14 その他	△38	△82	△11
小計	2,480	2,724	4,902
15 利息及び配当金の受取額	142	155	335
16 利息の支払額	△12	△8	△41
17 法人税等の支払額	△326	△1,266	△995
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,284	1,604	4,200

科目	前連結第1四半期 (平成18.4.1から 平成18.6.30まで)	当連結第1四半期 (平成19.4.1から 平成19.6.30まで)	〈参考〉 前連結会計年度 (平成18.4.1から 平成19.3.31まで)
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
II 投資活動によるキャッシュ・フロー			
1 定期預金の預入による支出	△30	△40	△140
2 定期預金の払戻による収入	50	40	180
3 有価証券の償還による収入	300	100	500
4 投資有価証券の取得による支出	△2	△505	△1,610
5 投資有価証券の償還・売却による収入	501	674	1,519
6 有形固定資産の取得による支出	△268	△408	△1,409
7 無形固定資産の取得による支出	△10	△11	△53
8 貸付けによる支出	—	△33	△7
9 貸付金の回収による収入	46	12	98
10 その他投資への支出	△3,150	△22	△3,346
11 その他	10	—	10
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,554	△194	△4,259
III 財務活動によるキャッシュ・フロー			
1 長期借入金の返済による支出	△326	△301	△1,243
2 親会社による配当金の支払額	△285	△347	△747
3 自己株式の取得による支出	△9	△12	△457
4 その他	△0	0	0
財務活動によるキャッシュ・フロー	△621	△660	△2,448
IV 現金及び現金同等物に係る換算差額	△10	104	66
V 現金及び現金同等物の増減額(減少:△)	△901	854	△2,440
VI 現金及び現金同等物の期首残高	13,753	11,312	13,753
VII 現金及び現金同等物の期末残高	12,852	12,167	11,312

(4) セグメント情報

① 事業の種類別セグメント情報

前連結第1四半期(平成18年4月1日から平成18年6月30日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	11,336	2,537	13,873	—	13,873
② セグメント間の内部売上高又は振替高	0	—	0	(0)	—
計	11,336	2,537	13,874	(0)	13,873
営業費用	10,210	2,487	12,697	(0)	12,697
営業利益	1,126	49	1,176	—	1,176

当連結第1四半期(平成19年4月1日から平成19年6月30日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	11,750	2,503	14,254	—	14,254
② セグメント間の内部売上高又は振替高	1	—	1	(1)	—
計	11,752	2,503	14,255	(1)	14,254
営業費用	10,199	2,540	12,739	(1)	12,738
営業利益又は営業損失(△)	1,553	△37	1,516	(0)	1,515

前連結会計年度(平成18年4月1日から平成19年3月31日まで)

	医薬品 (百万円)	機能食品 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高及び営業損益					
売上高					
① 外部顧客に対する売上高	46,541	9,778	56,320	—	56,320
② セグメント間の内部売上高又は振替高	2	—	2	(2)	—
計	46,544	9,778	56,323	(2)	56,320
営業費用	41,247	9,855	51,102	(2)	51,100
営業利益又は営業損失(△)	5,297	△76	5,220	—	5,220

(注) 1. 事業区分は、販売方法および製品の種類、性質、製造方法の類似性を考慮して区分しております。

2. 事業区分に属する主要な製品

事業区分	主要製品名
医薬品事業	泌尿器官用薬剤、炎症・アレルギー用薬剤、血液がん用薬剤、循環器系及び代謝性薬剤、消化器官用薬剤
機能食品事業	調味・香辛料、健康食品素材、品質安定保存剤、たん白製剤、除菌・洗浄剤、小麦製品

② 所在地別セグメント情報

全セグメントの売上高の金額の合計額に占める本邦の割合が90%を超えるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

③ 海外売上高

海外売上高が連結売上高の10%未満のため、その記載を省略しております。

主力製品売上高

平成19年8月6日
日本新薬株式会社

(単位:百万円)

製品名	薬効	H19年3月期	H20年3月期				
		第1四半期	第1四半期	前年同期 増減率	中間期 予想	対中間予 想進捗率	通期 予想
エビプロスタット	前立腺肥大症治療剤	1,585	1,446	△ 8.8%	2,900	49.9%	5,800
ハイペン	非ステロイド性鎮痛・抗炎症剤	1,327	1,702	28.3%	2,900	58.7%	5,800
ガスロンN類	粘膜防御性胃炎・胃潰瘍治療剤	960	963	0.3%	1,900	50.7%	3,900
セレクトール	高血圧・狭心症治療剤 腎実質性高血圧症治療剤	1,040	980	△ 5.8%	1,900	51.6%	3,800
ブラダロン類	頻尿治療剤	1,089	957	△ 12.1%	1,900	50.4%	3,800
セファドール類	抗めまい剤	782	765	△ 2.2%	1,450	52.8%	2,900
エストラサイト	前立腺癌治療剤	785	772	△ 1.7%	1,450	53.2%	2,900
キロサイド類	癌多剤併用療法代謝拮抗剤 再発又は難治性急性白血病治療剤	700	696	△ 0.6%	1,300	53.5%	2,600
バイナス	アレルギー性鼻炎治療剤	—	417	—	900	46.3%	2,500
レフトーゼ類	出血抑制消炎酵素剤	590	523	△ 11.4%	900	58.1%	2,000
アズノールうがい液	アズレン含嗽液	391	416	6.4%	750	55.5%	1,700
グリコラン	経口糖尿病用剤	217	235	8.3%	450	52.2%	900
オークル	抗リウマチ剤	262	207	△ 21.0%	400	51.8%	800
オドリック	ACE阻害剤	213	191	△ 10.3%	350	54.6%	700
リボスチン点眼液	抗アレルギー点眼液	137	72	△ 47.4%	300	24.0%	1,200
リボスチン点鼻液	抗アレルギー点鼻液	65	49	△ 24.6%	150	32.7%	600
工業所有権等収益		57	18	△ 68.4%	450	4.0%	800
プルリフロキサシン原薬		259	440	69.9%	500	88.0%	1,000
医薬品計		11,336	11,750	3.7%	22,300	52.7%	46,600
機能食品計		2,537	2,503	△ 1.3%	5,100	49.1%	9,900
売上高		13,873	14,254	2.7%	27,400	52.0%	56,500

製品開発状況

平成19年8月6日現在
日本新薬株式会社

<国内開発状況>

開発段階	治験 No. 〔商品名〕 (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請中	NS-126	炎症・アレルギー系	アレルギー性鼻炎	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
申請中	IKH-01 〔ルナベル錠〕	その他	月経困難症（子宮内膜症に伴う）	導入： ノバルファーマ	販売提携
P III	NS-315 (塩酸トラマトール)	炎症・アレルギー系	癌性疼痛 (非麻薬性鎮痛剤)	導入： グリュネタル社 (独)	自社
P II	NS-126	炎症・アレルギー系	気管支喘息	導入：久光製薬 (エスエス製薬)	自社
P II	NS-11 (アカンプロセト)	その他	アルコール依存症	導入： メルクサンテ社(仏)	自社
P I 準備中	NS-17 (アサシジン)	血液癌	骨髄異形成症候群	導入： ファームオン社(米)	自社

<海外開発状況>

開発段階	治験 No. (一般名)	領域分類	適 応	オ リ ジ ン	開 発
申請中	NM441 (フルロキシソ)	感染症	合成抗菌剤	自社	導出： 柳韓洋行社(韓)
P III					導出： オプティマー社(米)
P II 準備中	NS-304	循環代謝系	肺高血圧症	自社	自社：英国
P I	NS-187	血液癌	慢性骨髄性白血病	自社	導出： イノバイブ社(米)

製品開発状況・補足資料

平成19年8月6日現在
日本新薬株式会社

申請中	
NS-126	1日1回投与の吸入ステロイド剤で、アレルギー性鼻炎について昨年12月に承認申請した。
IKH-01 〔ルナベル錠〕	一相性低用量ピル（黄体ホルモンと卵胞ホルモンの混合ホルモン剤）で、欧米では子宮内膜症に伴う月経困難症の第1選択薬として広く使用されている。国内では、ノーベルファーマにより開発され、2006年10月に申請。2007年7月販売提携契約締結。
フェーズⅢ	
NS-315 (塩酸トラマトロール)	グリネンター社(独)から導入（本年1月、独占契約に改定）した非麻薬性の経口鎮痛剤で、世界100カ国以上で販売されている。NSAIDsとモルヒネの中間に位置する鎮痛剤として、癌性疼痛を対象にPⅢ試験終了。申請前相談での指摘により追加臨床試験実施中。
フェーズⅡ	
NS-126	気管支喘息についてPⅡa試験終了。
NS-11 (アンプロセト)	2003年メルクサンテ社(仏)から導入したアルコール依存症治療剤で、既に欧米で発売済み。国内ではPⅡ試験実施中。
フェーズⅡ準備中	
NS-304	自社開発したプロドラッグ型経口剤で、活性代謝物が長時間血中に持続し、強力かつ選択的なPGI ₂ アゴニスト活性を示す。肺高血圧症治療剤として、英国でPⅠ試験終了し（欧州医薬品局よりオーファン指定済）、欧州でのPⅡ試験準備中。
フェーズⅠ	
NS-187	グリベック耐性変異体Bcr-ablチロシンキナーゼとLynチロシンキナーゼを強力に阻害、グリベック耐性にも奏効する慢性骨髄性白血病治療剤として開発。2005年末にイノバイブ社(米)へ導出。PⅠ試験実施中。
フェーズⅠ準備中	
NS-17 (アザシチジン)	2006年ファーマオン社(米)から導入した骨髄異形成症候群（MDS）治療剤で、米国で第一選択薬として用いられている。全てのMDSサブタイプに効果が認められ、白血病（AML）への転化を遅らせる。作用機序は、血液形成細胞DNAのメチル化阻害。